

令和2年度 5月号



学校だより「ことのは」

— 遠大なる理想 あふるる友情 不屈の闘志 —
【発行】 たつの市立龍野東中学校 校長 道前弘志



ひがドラ

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、さまざまなご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。また、医療関係者の皆様を始め、社会の基盤を必死になって守っていただいている多くの皆様に、心から感謝を申し上げます。今更ながらではありますが、私たち人間は一人では生きていけないということを身にしみて感じます。いつも誰かのおかげで生きているということを職員一同肝に銘じたいと思います。

5月21日、兵庫県に於いて緊急事態宣言が解除されました。市内すべての小中学校で、学校再開に向けて準備を進めているところです。本校も、たつの市教育委員会と連携しながら、できる限りの対策を講じ、今後の対応にあたって参ります。保護者の皆様も、さまざまな不安や心配等があるかと思いますが、何卒ご理解をお願いいたします。



さて、学校に生徒たちの声が戻ってきます。それはとてもうれしいことです。やはり生徒のいない学校のさみしさは言葉では表現し難いものがあります。学校に息吹を取り戻し、子どもたちが人として生きていくための人間力を失わないためにも細心の注意を払いながら前を向いていきたいと思います。目に見えない敵は、いまだ「正解」を教えてはくれません。誰もが迷い、悩みながらではありますが。だからこそ、気持ちを一つにすることが大切なのだと思います。苦しいときだからこそ、悔しい思いをしたからこそ、子どもたちにはたくましくなってほしいと願います。「去年ならできたのに・・・」と思うことも多いでしょう。でも、そんな「思い」が将来にわたって、何の意味も持たないなど絶対にあり得ない。きっといつか子どもたちは、この状況の「意味」を身をもって証明してくれるに違いありません。私たちは、5年後、あるいは10年後の子どもたちの「あってほしい」姿を思い描いて支えていきたいと思います。

一息に生きる —「今」を丁寧に生きること—

「一息」は「いっそく」と読みます。「ひと呼吸するその瞬間、瞬間を一生懸命に生きよう」という意味で、もともと禅宗の言葉だったそうです。たった一回息をする、その一瞬さえも懸命に生きよというわけです。厳しい言葉です。勉強するときには勉強のことだけ考える、食事の時には食べることに集中する。掃除の時はいかにきれいにするかだけを考える。どんな苦しい状況にあっても、今ここで何をすべきかを考え、それに集中できれば心は乱れないという教で、「充実」や「幸福」もこうした「集中」の中にあるということです。今やっていることが明日の自分につながる。明日やったことは明後日につながる。そうやって私たちは、自分の未来を自分で創り出しているのです。「今」は「今」であって「今」だけではない——ということでしょうか。